

第1回『ながやま子どもの水辺協議会』を開催！

子どもたちの笑顔が集う 永山新川の水辺づくりに着手

去る平成16年10月28日(木)、川のふるさと交流館「さらら」の2階・会議室において、第1回『ながやま子どもの水辺協議会』が開催されました。

本協議会は、永山新川に子どもたちでにぎわう豊かな水辺をつくろうと発足したもので、旭川市教育委員会や地元小学校関係者、河川管理者、地元NPO法人、永山の地域関係者などが参加して委員を構成しています(出席者は、裏面の名簿に記載)。

開会に先立ち、旭川開発建設部治水課の羽山課長補佐より「子どもの水辺」についての概要説明があり、続いて、元永山新川水辺づくり意見交換会長の加藤雅規氏を座長に迎え、議事が進められました。



第1回「ながやま子どもの水辺協議会」

4省が進める 「子どもの水辺」再発見プロジェクト

「『子どもの水辺』再発見プロジェクト」とは、国土交通省(河川局)・文部科学省・環境省が連携し、農林水産省がサポートして進めている取り組みです。その目的は、子どもたちの水辺の利用を促進し、地域における体験活動の充実を図ろうとするもので、全国各地の河川・湖沼などを対象に「子どもの水辺」の選定や登録、支援などが行われています。

北海道内でも、既にいくつかの団体が登録し活動していますが、旭川市内では、NPOや民間団体などが個々に活動しているものの、「子どもの水辺」としての登録・活動は行われていませんでした。そこで、永山新川の誕生をきっかけに、野鳥が飛来する豊かな環境や穏やかな水の流れを活用し、永山ならではの水辺づくりをめざしたいとの声が高まり、このたびの協議会発足が実現したのです。

本協議会では、安全整備などのハード面を河川管理者がサポートし、教育関係者や地域の人々が中心となって協議を進め、さまざまな知恵を出し合っ、永山にふさわしい水辺づくりをめざす考えです。

道内の活動事例にみる さまざまな問題点と解決策

意見交換に入る前に、活動事例として、「しべちや子どもの水辺協議会」「NPO法人北海道田園生態系機構(田んぼの学校)」「真駒内水辺の楽校」の活動状況と、各協議会が抱えている問題点やそれらを解決する方向性も、以下のように紹介されました。

問題点

- 学校との連携が難しい(授業カリキュラムへの導入、運営サイドの実施計画調整など)
- 川遊びを知らない世代の父母・教師が多く、何をどうすればいいかわからない。
- 川の達人とも言える人材の育成や確保に、資金面の問題が生じる。

解決の方向性

- 父兄・教師がともに水辺の体験教育現場に出向き、協調体制をつくる必要がある。
- 若いリーダーを育成し、教師やPTAも一緒になった活動をめざす。
- 活動のマンネリ化防止策が必要。
- 地域の高齢者や学校長OB、主婦などの知恵を借り、指導にあたる。
- 河川整備においては、地域住民のニーズに合わせながらも、自然との調和や関心を高める取り組みが必要。

裏面へつづく>>>

● 永山新川



永山新川を活動フィールドに、身近で魅力いっぱいの水辺づくりがスタートしました。